

平成 24 年度能美市地域福祉活動計画 第 4 回アクションプラン推進協議会 (会議録)

日 時：平成 24 年 11 月 27 日 (火) 午後 7 時 30 分～午後 9 時

会 場：辰口健康福祉センター

参加者：高塚 亮三、宮田 明、橋本八重子 (地域福祉人づくり委員会)

西川 方敏、武田 裕幸 (私たちのボランティアセンターづくり委員会)

井上 徹 (地域福祉ネットワークづくり委員会)

喜多 泉 (地域福祉支えあいのしくみづくり委員会)

田中 邦一、村上 洋子 (評価委員会正副委員長)

社協・宮本会長、斉藤事務局長、新川次長、海道、高畑、谷、小西 (記録)

欠 席：吉田 良、清水奈津美 (敬称略)

1 開会のあいさつ

高塚会長：こんばんは。早速、5年間の締めとして、どのように2次につないでいくのか、会をはじめたい。

2 協議

① 各アクションプラン委員会からの報告

- ・第2次計画の途中経過と「春まちぼかぼかプロジェクト」の分科会についての協議結果

高塚会長：前回の策定ワーキング部会で話し合われたことを各アクションプラン委員会に持ち帰って話し合われていると思うので、その報告に対する意見や、「春まちぼかぼかプロジェクト」での分科会の持ち方について、アクションプラン委員会において協議されてきたことを、まずは、地域福祉支えあいのしくみづくり委員会より報告願いたい。

喜多理事：親子サロンを今年度、土曜日にも開催してみて、とても効果があった。お父さんが子どもを連れてくることが増えてきたり、夫婦で参加したり、とても良い光景を見ることができた。常設化を提言しているが、このように多くの参加があるからのことである。2次計画では、親子サロンの常設化をめざしていきたい、また、企業への啓発や発信についてもアクションプランに入れていきたい。絵本カフェも今後も続けていきたい。

高塚会長：質問は後でまとめてお願いすることにし、次は私たちのボランティアセンターづくり委員会から報告ください。

西川副会長：去る11月6日に「喫茶 あいテラス」という体験型ボランティアセンターを開催した。これは2か月に1回の火曜日10時～12時に定期的に開催しているもので、「いつでも開いている・人が集うことができるボランティア・コミュニティ活動支援センター(以下「ボラセン」という。)」を試行している。報告の分科会には、他の委員会と開催場所の共用も考えている。

井上理事：先日の第2次策定ワーキング部会の報告であれば、地域福祉ネットワークづくり委員会に関する課題は話し合わなかったので報告することがない。何か同じことばかり言っているような気がするが、我が委員会では、地域福祉委員会といきいきサロンを中心に話し合いをしてきた。2次計画につなぐことは、地域福祉委員会の未設置のところをどうするのか。設置は進めるが、あまり設置ばかりにこだわらなくても良いのではないかという意見もあり、考えていく。いきいきサロンについては地域福祉委員会の中で認められ、応援してもらえるよ

うになれば長続きすると話し合っている。

高塚会長：地域福祉人づくり委員会で、策定ワーキング部会の報告を受けて、話し合ったところでは、地域福祉支えあいのしくみづくり委員会で「協力サポーターを増やすことを進める」といわれているが、サポーターということが前面に出ているように思う。親子サロンの話にもあったが、むしろ地域の中に横方向にどのように広がり、共助というよりも互助的な支えあいをもう少し見ていったほうがいいのではないかと。親子サロンが核であるが、互いに仲間同士、悩みを打ち明けられる関係性ができるようにすすめることが大切。

また、「ファミリー・サポート」というものは、高齢者介護や障害者支援とも関わる複合的な問題であり、子育てに特化してよいのかという話もあった。ボラセンも地域の支えあいと捉えると、地域福祉ネットワーク委員会が中心になると思う。互いにオーバーラップしながら制度の谷間を埋めていくことが大切だ。

そして、地域福祉人づくり委員会は、地域のコミュニケーションを活性化することで互いを思いやる意識が生まれてくることから、地域の人たちがどういう考え方をしているのかを知り、町(内)会の役員に福祉意識をどう持ってもらうかに主眼を置いていく。その上で地域福祉をすすめるには、地域福祉委員会の設置が必要だと理解されていくのではないかと。

地域福祉人づくり委員会の分科会は、3月10日の地域福祉委員会のつどいとジョイントできれば良いと思い、計画を進めている。

5年間、地域福祉人づくり委員会を進めてきて思ったことは、皆さん、一生懸命人助けをしよう、人助けをしようという意識が強すぎるということ。そのためにかえって何もできない。ふだんのくらしの中でできることはコミュニケーションであり、そのことが人づくりになるのではないかと思う。

田中評価委員長：今回は、前回9月26日の反省をするのか、これから以降の行事の話し合いをするのか、今日の案内に第1次計画のまとめを持ってくるように書いてあったが・・・

事務局：今回は、各委員会の分科会を3月の報告会でするのかどうか、どういうふうにするのかということをお話し合っていて欲しい。

今の各委員長の報告については、第1次のまとめを基本として第2次の策定ワーキング部会で話し合っている内容を、それぞれのアクションプラン委員会へ持ち帰り、話し合われている内容を、紹介していただいた。

実際、前回の策定ワーキング部会は支えあいのしくみづくり委員会とボランティアセンターづくり委員会に関する課題を中心に話し合い、他の地域福祉ネットワークづくり委員会と地域福祉人づくり委員会に関する課題はまだ話し合われていない。

田中評価委員長：分かりやすい進行をお願いしたい。

事務局：今回は、春まちぽかぽかプロジェクトについての最終的な日程調整をしていただきたい。

西川副会長：今の高塚会長の話の中で「共助」と「互助」について話されていたが、その使い分けをどのように考えられているのか。確認させていただきたい。

高塚会長：「共助」は、サポートした相手から何の見返りもなく、その人がまた他の人をサポートしていくというイメージ。一方、境遇の同じような人たちの集まりがあれば、今回は自分がサポートするけど、次回はお願いなという仲良しグループのやりとりが「互助」というイメージ

ジである。

喜多理事：先ほど、ファミリー・サポート・センターのことを言わなかったので言わせてほしい。ファミリー・サポート・センターのしくみは有意義だと感じているが、最初からイコール「サービス」ということではないと認識している。サービスを提供するだけではなく、そこに人のつながりが生まれる。ファミリー・サポート・センターがあることで「助けて」といえることが大事なことであり、サポートをする人と依頼した人が何回も付き合っていくうちに心の内を話すようになる例もある。これも支えあいのしくみとしては大切なことだと思うのでやっつけていかなければならない、残していかなければならないことだと思う。

また、障害を持った親子に関しては、月1回土曜日に障害を持った親子やいろいろ心配な親子が参加できる親子サロンを開催して、少しずつ普通の親子サロンに出れるように向けていければいいと思う。さらに、企業に向けては、「お父さんは育児に関わってもらうことが大事だ」ということを、皆さんの協力を得て進めていきたい。

高塚会長：ファミリー・サポート・センターはサービスではないと言われたが、今の話を聞いているとサービスそのものだと思う。サービスをどうするのかということは、市が何らかの形でサポート体制を作らなければいけないが、そういう制度を作っても落ちこぼれる人が出てくる。そういう人をどういうサービスに繋げていってあげればいいのか。そういうことを行うのが本来のファミリー・サポート・センターはないかと思うが、喜多さんが言っているのは、サービス事業として私たちがいるのだというふうにしか聞こえないが・・・

西川副会長：私は違うように聞こえた。高塚会長はコミュニケーションを取り合うことが大事だといわれた。そのコミュニケーションを取り合うひとつの機会、場所がファミリー・サポート・センターだという捉え方ができると思う。サービスではないというのは、公助として必要かもしれないが、地域福祉の面でも、コミュニケーションを取り合う場所となってくればよい、ということだと思う。

高塚会長：そこはよいのだが、支えあいの範囲を子育てだけに絞るといことがわからない。自分たちがサービスを提供するのではなく、介護問題や障害を持つことなどに絡む複合的な問題が生じてきていることを考えなくてはならないと思うが、その場所がファミリー・サポート・センターなのではないかと思う。

西川副会長：サービスと捉えるから手が回らないということであり、サービスと捉えなければ、高齢者や障害者に関することも話題にして、方向性を協議することもできるのではないかと思う。

高塚会長：地域福祉支えあいのしくみづくり委員会も地域福祉ネットワークづくり委員会ももっと重なる場所があってもいいと思う。領域を決めてしまうような考え方は地域福祉の向上に繋がらないように思う。

西川副会長：ただ、組織づくりを目標にしてしまうと敷居が高くなる。地域という土壤に、福祉意識の種をまくというぐらいの任せ方でいいのではないかと感じる。

事務局：今の段階はまだ中途であり、課題について論議（協議）をするのは、第2次の取り組みが全部、出揃ってからにしていきたい。今回の主要な協議をすすめることとしたい。

② 分科会と全体の日程について 3月 日 () から3月10日(日) P2参照

事務局：レジメのP2を説明。

地域福祉支えあいのしくみづくり委員会・・・第1希望 3月2日(土)⇒委員会に持ち帰り
私たちのボランティアセンターづくり委員会・・・第2希望 3月2日(土)にする。

高塚会長：社協事業をこの「春まちぼかぼかプロジェクト」のプログラムに入れるのかどうか？

事務局：社協もこのような事業をやっているというPRもさせていただきたい。日程としては
3月1日(金)～10日(日)でよろしいか ⇒ 全員賛成

事務局：昨年のような分科会ごとの詳細プログラムを各アクションプラン委員会で作成して頂きたい。

高塚会長：締め切りはいつか？

事務局：市民への周知が2月の市広報にチラシを入れることから、1月15、16日には原稿が完成していないといけない。よって、原稿は12月の各アクションプラン委員会で決めていただき、年内に提出していただきたい。

田中評価委員会委員長：第2次策定ワーキング部会はいつまで行うのか。

事務局：月1回の開催頻度で、来年3月まで実施する予定。

喜多理事：「春まちぼかぼかプロジェクト」の大まかな原稿は12月中の提出でよいか。

事務局：それをお願いします。

③ 地域福祉活動計画の全体報告“1次から2次へ”の内容について

3月10日(日)午後2時30分～3時

- 【内容】 ・全体報告
・各委員会から1次から2次へつなぐ課題の報告

事務局：詳細説明

30分の時間で内容をどのようにするのか、少し検討して頂きたい。各委員長からの何分ずつかの報告にするのか、全体的に報告するのかなど、検討をお願いしたい。

社協会長：30分しかないのであれば、各委員会の持ち時間も5分程度で、後は質疑応答となるだろう。第1次ではこういうことに取り組んだとか、第2次にこういうことに取り組んでいくくらいしかいえないと思う。

事務局：各委員会より提出頂いたまとめシートをさらに、簡略化した原稿(参加者に資料として配布)に、少し各委員長の思い、エッセンスを入れて話して頂くこととしてはどうか。

高塚会長：それはワンポイントで攻めるのか全体をいうのか。

社協会長：2～3項目程度の報告でよいのではないか。

喜多理事：全体としては、30分がよいと思う。各委員長より各委員会の遣り残したことや、次に繋げたいことを話してもらって、その後、今まで4委員会でやってきたけれど、次の段階でお互いに混ざり合いながらやっていこうという話が出ていたので、全体的な流れとして、4委員会の歩みの中で、今後の4委員会がどうあるべきかを高塚会長から話してもらえばよいと思う。

事務局：4委員会がどうあるべきか、それまでには形が出てくるので、それをまとめて最後に高塚会長に言っていただくことでどうか。

社協会長：各委員長からの報告は、事務局や社協にこんなことをして欲しいというのではなく、市民の皆さんに対して、こんなことに協力して欲しいという観点での報告がよいのではないか。
⇒ 全員了解

3 今後の各アクションプラン委員会等の日程について

- ・地域福祉人づくり委員会 …12月11日（火）午前10時～寺井地区公民館
- ・地域福祉ネットワークづくり委員会…12月 4日（火）午後7時30分～寺井地区公民館
- ・私たちのボランティアセンターづくり委員会
…12月19日（水）午後7時30分～辰口健康福祉センター
- ・地域福祉支えあいのしくみづくり委員会…12月14日（金）午後2時30分～ふれあいプラザ

その他

- ◆日本地域福祉学会について…12月8日（土）、9日（日）金城大学
シンポジストに高塚会長 参加者として分科会に西川副会長、シンポジウムに社協職員
- ◆障害者週間記念事業について…12月8日（土） 寺井地区公民館
今晚、日最後の打ち合わせをしている段階。事務局より事業の紹介
- ◆絵本カフェ・・・12月15日（土）ふれあいプラザ

4 次回開催日

1月17日（木）午後7時30分～ 辰口健康福祉センター

5 閉会の挨拶

西川副委員長：種を蒔いて、それが育つということは、人のことであり、私たちのやっていることは土壌を耕すことではないかと思う。地域福祉活動は文化を作り上げるとの思いがあり、「文化」は英語で **culture**。語源は「耕す」からきていることから、地域文化はまさに耕すことであると思う。またいろいろ考えていきたいと思う。次回は来年になるがよろしくお願ひします。